

会 長 あ い さ つ

宮崎県校長会 会長 古 木 克 浩

春光うらかな季節を迎え、学校も活気に溢れていることと存じます。

令和3年度の宮崎県校長会会長としてご承認をいただきました宮崎市立宮崎東中学校の古木克浩です。新役員を代表しまして、ごあいさつを申し上げます。

この3月末の定期異動により、小中学校で94名の先生方がご勇退をされました。そして、小学校39名、中学校16名の先生方が新たに校長に採用され、また、27名の先生方が新たに県教育委員会より転入をされました。新任と転入の校長先生方にお祝いと歓迎の言葉を申し上げます。これまでに培ってこられた経験と力量をもとに、新たな感覚で学校の経営にご尽力くださいますようご期待申し上げます。

ところで、今年の1月下旬に、『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』について、中央教育審議会の答申が示されました。これまでの、日本型教育が果たしてきた役割を継承しつつ、学校における働き方改革やGIGAスクール構想を強力に推進するとともに、新学習指導要領を着実に実施し、学校教育を社会に開かれたものにしていくこと、また、文部科学省をはじめとする関係府省及び教育委員会、首長部局、教職員、さらには家庭、地域等を含め、学校教育を支えるすべての関係者が、それぞれの役割を果たし、互いにしっかりと連携することで、「令和の日本型教育」の実現に向けた必要な改革を果敢に進めていくことが期待されています。

このように、教育は、時代とともに改革が進められています。私たち校長は、このような教育改革をしっかりと受け止め、理解し、実践しなければなりません。しかし、常に教育の原点、いわゆる「教育の目的」・「学校教育の目的」は何かを、見失うことなく、児童生徒の実態に即した指導を行うことが大切であると考えます。

最近、不登校生の増加や保護者等からの多様な要求も多くなるなどの様々な課題があり、その解決に苦心している学校も多いことと思います。また、インターネットやスマートフォンでのSNS利用は、利便性とは裏腹に大きな影を落としている状況も見られます。また、昨年度も教職員の不祥事が相次ぎました。あつてはならないことが多発し、非常に残念に思います。不祥事が発生しますと、ごく一部のことであつても、全体への不信感につながり、保護者や県民の皆様からの信頼回復には時間がかかります。私たち校長は、このような不祥事が、どの学校でも起こり得ることと認識し、当事者意識をもって教職員指導に当たることが肝要だと思います。

これらの問題に対しまして、県校長会としても、これまで以上に県教育委員会、市町村教育委員会と具体的に連携を強化して、一体となって取り組んでいかねばならないと考えます。まずは、その最前線にいる私たちが、今まで以上に、校長同士の連帯感、結束力を強化する必要があります。決断すべきときには、信念に従って果敢に行動する勇気と実行力を併せもつ多くの仲間がいる校長会。いつでも、何でも相談でき、助けあえる仲間がいる校長会。とことん議論をし、いったん決まったら、一枚岩にまとまる校長会。そのような組織の校長会でありたいと願っています。校長が、自分一人で問題を抱え込むことなく、県内334名の会員が心をついて、立ちはだかる課題を解決していかねばなりません。校長先生方お一人お一人の後ろに、市町村校長会・支会校長会があり、県校長会があることを感じられるような組織を創っていかねばならないと考えております。

最後になりましたが、私たち役員一同、歴代校長会の先輩たちが、大変なご苦勞を積み重ねて築いてこられた、これまでの歴史や伝統を大事にしながら、県内の校長先生方が「学校経営」という舞台上、ますます成果を挙げることができますよう、会員の校長先生方の創意と英知を結集し、当面する諸課題の解決に向けて、組織として行動することを大切にしていきたいと考えております。微力ではありますが、皆様のご期待に応えるべく、精一杯努力していく覚悟でございますので、どうぞよろしく願いいたします。